



## 目的

- ◇ 海岸の環境や利用と調和を図りつつ、海岸侵食に脅かされる海岸背後地の人々の安全・安心を確保するとともに、国土を保全する。

## 目標

- ◇ 「背後地(人家、有料道路等)への越波被害を防止すること」を防護目標とし、そのために必要な「浜幅50mの確保」を達成することを目指す。
- ◇ 現況汀線位置が浜幅50m以上である区域については、流砂系も含めた対策により、その保全・維持を目指す。

## 考え方

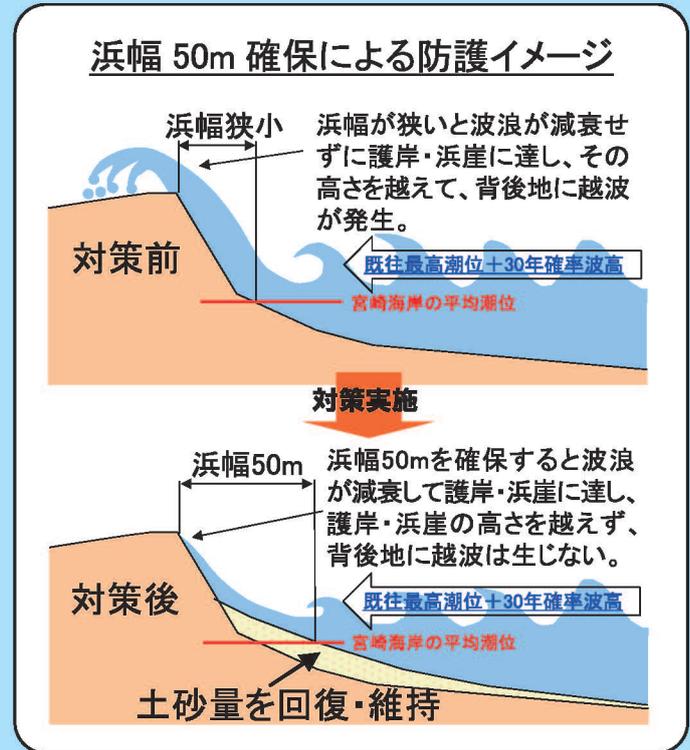
- ◇ 北からの流入土砂を増やすこと(機能①)、南への流出土砂を減らすこと(機能②)により、これまでに失われた宮崎海岸の土砂量を回復・維持し、砂浜を回復維持する。
- ◇ 急激な侵食の危険性がある区域において、浜崖の後退を抑制する(機能③)。

## 配慮事項

- ◇ 新たに設置するコンクリート構造物は出来るだけ減らす。
- ◇ それぞれの区域の特徴に応じたものとする。
- ◇ 豊かな自然環境を最大限残す。
- ◇ 美しい景観、漁業・サーフィン・散歩等の利用に配慮する。
- ◇ (直轄)工事完了後も維持管理に過剰な負担がかからないようにする。
- ◇ 山、川、海における土砂の流れに出来るだけ連続性をもたせ、将来は自然の力による砂浜の回復・維持を目指して、様々な取り組みを行っていく。  
ただし、その取り組みは時間がかかることから、当面は他事業とも連携した養浜を積極的に実施していく。

## 事業の進め方

- ◇ 今後もこれまでと同様、「宮崎海岸トライアングル」および「宮崎海岸ステップアップサイクル」の考え方に基づいて進めていく。



## 宮崎海岸保全整備事業



## 「宮崎海岸の侵食対策」とは

「宮崎海岸の侵食対策」は、宮崎海岸保全の基本方針に基づく、3つの対策(養浜、突堤、埋設護岸)からなるプロジェクトです。

### 養浜(北からの流入土砂を増やす)

- ・失われた土砂の回復のため、養浜を実施(中長期的:宮崎海岸北側や河川からの流入土砂の増加など)
- ・砂の動きや養浜の利点(機動・柔軟的な対応可能)を考慮し、北側(大炊田海岸周辺)や侵食の著しい箇所を実施



### 突堤(南へ流出する土砂を減らす)

- ・効率的に海岸の土砂を回復させるため、北から南に動く養浜砂を直接止める(捕捉する)突堤を設置
- ・効果の早期発現のため、補助突堤を設置

#### 突堤イメージ図



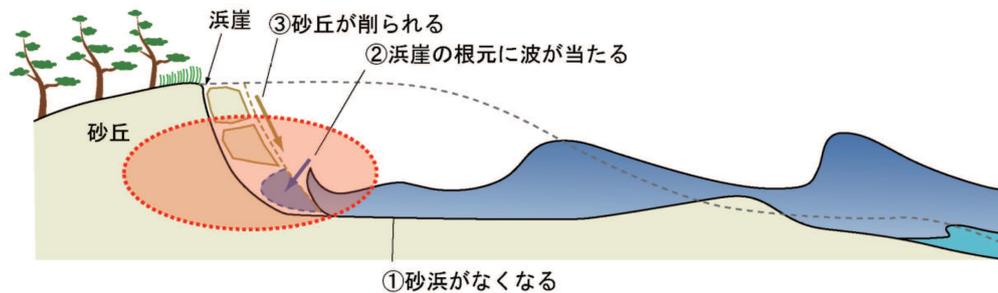
### 埋設護岸(浜崖頂部高の低下を防ぐ)

- ・越波・浸水の防止に対し、自然堤防として重要な役割を果たす砂丘の高さを確保するため、埋設護岸を設置
- ・できるだけコンクリート以外の材料を使うこと、養浜の実施箇所を工夫し、護岸の表面を養浜で覆うことで、環境・景観・利用に配慮

#### 埋設護岸イメージ図

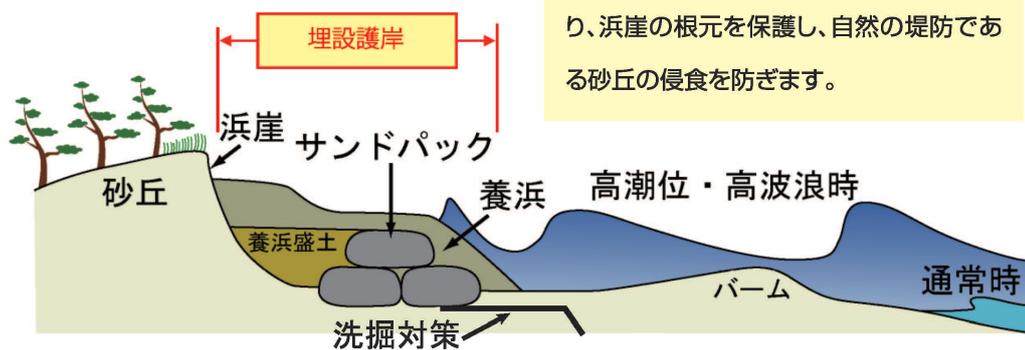


埋設護岸の目的

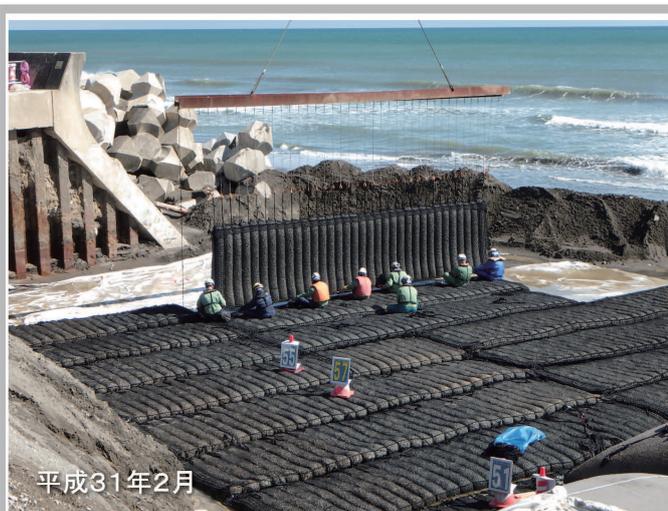


砂丘の侵食を防ぐために浜崖の根元を保護する。

埋設護岸のイメージ



サンドパックと背面の養浜盛土が一体となり、浜崖の根元を保護し、自然の堤防である砂丘の侵食を防ぎます。



洗掘対策の施工(住吉海岸)



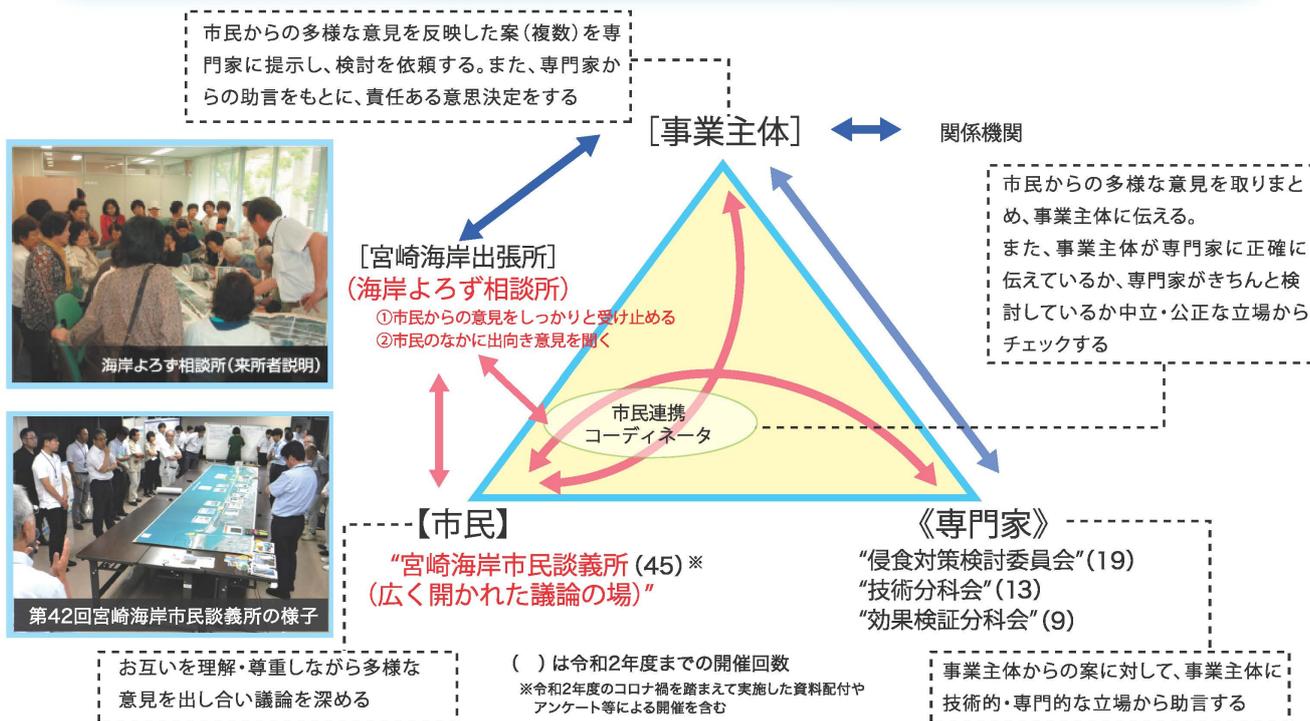
サンドパックの充填作業(住吉海岸)

## 「宮崎海岸トライアングル」と「宮崎海岸ステップアップサイクル」

平成20年4月に国土交通省直轄事業（宮崎海岸直轄海岸保全施設整備事業）に着手し、侵食対策の2本の柱をもとに事業に取り組んでいます。

### 宮崎海岸トライアングル

宮崎海岸の砂浜の保全を目的として、行政・市民・専門家が三者一体となって進めています。



～地域との連携に向けて様々な取り組みを実施～

平成30年12月

「第1回宮崎海岸サポーターズ 身近な海岸をもっと知ろう!」の開催

令和元年8月

「石崎浜ビーチクリーン」開催協力 (宮崎海岸をみんなで美しくする会主催)

「海岸よろず相談所だより」の発行

宮崎海岸侵食対策検討委員会の様子

### 宮崎海岸ステップアップサイクル

自然現象の複雑さと社会環境・自然環境の変化に対する未来予測の不確実性を踏まえ、どのような方法をとればよいかを検討・実施し、その方法の効果を確認しながら、修正・改善を加えて、対策を着実に進めています。

